

2021年3月期第2四半期
決算説明会
要旨

開催日時：2020年11月6日（金）15：30～16：30

旭化成株式会社

予想・見通しに関する注意事項

当資料に記載されている予想・見通しは、種々の前提に基づくものであり、将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

会社側参加者：

取締役 兼副社長執行役員 柴田
経理部長 佐藤
基盤マテリアル事業本部 企画管理部長 高橋
パフォーマンスプロダクツ事業本部
企画管理部長 桑葉
スペシャルティソリューション事業本部
企画管理部長 杉山
スペシャルティソリューション事業本部
セパレータ事業統括部長 福田
旭化成ホームズ 経営管理部長 坂井
旭化成ファーマ 経営統括総部長 柏木
IR室長 濱本

柴田 はじめに、宮崎県延岡市にある旭化成エレクトロニクスの半導体製造工場の火災について説明する。10月20日に発生した火災について、地域の皆様をはじめ、行政、取引先ほか関係者の皆様には多大なるご心配、ご迷惑をお掛けしていることを深くお詫びする。現在は当局の原因究明調査ならびに供給責任全うのため、各方面からご支援をいただきながら、当社グループを挙げて全力で対応している。なお、業績への影響については、現時点で想定可能な範囲で本日発表の2020年度通期業績予想に織り込んでいる。

P3 上期実績の概要（1）

2020年度上期実績は、8月公表予想（以下、従来予想）の売上高9,790億円、営業利益660億円を上回り、売上高9,894億円、営業利益768億円となった。「マテリアル」「住宅」で従来予想を上回る営業利益となった。

主な背景としては、「マテリアル」において、自動車市場等の市場環境の改善に伴い各製品の需要が回復してきたことに加え、電子材料製品の好調な販売が継続したこと、「住宅」の建築請負部門において、COVID-19感染対策の実施に伴う工期の延長を見積もっていたが、想定より順調に工事および引渡しが進んだことがある。

P4 上期実績の概要（2）

前年同期比では、好調に推移したクリティカルケア事業を中心に「ヘルスケア」が増益となったが、「マテリアル」を中心にCOVID-19感染拡大の影響を受け、グループ全体で減収・減益となった。

「マテリアル」では、リチウムイオン電池（以下、LIB）用セパレータや電子材料製品の販売数量が増加したが、COVID-19感染拡大を背景に、石油化学製品市況の悪化や自動車関連市場、衣料関連市場における需要減退の影響を受け、減益となった。

「住宅」では、建築請負部門やリフォーム部門を中心にCOVID-19感染拡大の影響を受けたが、不動産部門が好調に推移し、前年同期並みの営業利益となった。

「ヘルスケア」では、COVID-19感染拡大の影響に加え、2019年度に買収した米国Veloxis Pharmaceuticals Inc.（以下、Veloxis）の連結に伴うのれん等の償却負担や、医薬・医療事業において国内の薬価改定、償還価格改定の影響を受けたが、人工呼吸器の需要が増加したクリティカルケア事業が上期に好調であったことから、増益となった。

P10 連結損益計算書

売上高は9,894億円で、前年同期比で793億円の減収となった。売上総利益は3,227億円で、粗利率はほぼ前年同期並みだ。販管費は2,459億円で、前年同期比で16億円増加した。COVID-19感染拡大の影響で旅費交通費等の経費が減少したが、Veloxisの買収に伴うのれん等償却費の増加や、業績が拡大している事業において労務費の増加等があり、販管費が増加した。営業利益は768億円で、前年同期比で249億円の減益となった。

営業外損益は7億円の益で、前年同期比で29億円悪化した。主な理由は、アクリロニトリル（以下、AN）やMMAの市況悪化を受けてタイのPTT Asahi Chemical Company Limitedの業績が悪化し、持分法投資損益が悪化した。

特別損益は60億円の損で、前年同期比で116億円悪化した。前年同期に政策保有株式の売却があったが当期はその額が減ったこと、当期に海外の

子会社で事業構造改善費用を計上したことが主な要因だ。

税金等調整前四半期純利益は 714 億円で、前年同期比で 394 億円の減益となった。

親会社株主に帰属する四半期純利益は 468 億円で、前年同期比で 311 億円の減益となった。

P11 連結貸借対照表

2020 年 3 月末と 9 月末を比較すると、総資産はほぼ横ばいだ。売上高の減少に伴い受取手形及び売掛金が減少し、のれんの償却が進み無形固定資産が減少したが、有価証券の時価評価額が増加したこと等から、全体ではほぼ 3 月末並みとなった。

負債は 206 億円減少した。有利子負債は 38 億円増加した。

純資産は、配当支払いにより減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと等から、211 億円増加した。

D/E レシオは 0.51 で、3 月末からほぼ横ばいだ。

P12 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは 1,046 億円のキャッシュ・インとなった。前年同期比では、売上債権等の運転資本の減少によりキャッシュ・インが増加した。

投資活動によるキャッシュ・フローは 859 億円のキャッシュ・アウトとなった。LIB 用セパレータ等、積極的に設備投資を行ってきたことや、当期に Sage Automotive Interiors, Inc. による米国 Adient plc の事業譲受に伴うキャッシュ・アウトがあった。

これらの結果、フリー・キャッシュ・フローは 187 億円のキャッシュ・インとなった。

財務活動によるキャッシュ・フローは 185 億円のキャッシュ・アウトとなり、現金及び現金同等物の期末残高は 2,058 億円となった。

P14 セグメント別売上高・営業利益増減内訳

「マテリアル」において、自動車関連市場と衣料関連市場の需要減退に伴う数量差のマイナスが大きい。また、石油化学製品市況の悪化が売値差に

大きくマイナス影響を及ぼしたが、一方で営業利益の「その他差」において原燃料因のプラスとして影響した。

P5 2020 年度通期業績予想の概要（1）

通期業績予想につき、従来予想では営業利益のみ、1,200～1,300 億円と幅を持たせて発表したが、上期を終えた今回の決算では売上高から当期利益まで、予想を出した。北半球の COVID-19 の拡大に注意しなければならないが、第 2 四半期から特に自動車等を中心に市場環境が改善してきたことを受けて、下期についても徐々に改善していく傾向は続くとの前提で見ている。

まず、上期から下期の各セグメントの見通しについて説明する。「マテリアル」は自動車市場をはじめ、市場環境の回復を見込んでいる。AN も販売数量の増加および交易条件の改善を見込んでおり、増収・増益を予想している。

10 月に発生した旭化成エレクトロニクス of 火災の影響を、現時点で可能な範囲で織り込んでいる。ただ、現地では当局による原因究明の調査が終わっておらず、我々も立ち入ることができていない。今後、業績への影響を変更する可能性がある。

「住宅」は先日買収した米国 Austin の連結影響や、建築請負部門において複数の大型物件の引渡しを予定することから増収を見込んでいる。一方、営業活動等の再開により固定費の増加が想定されることや、上期に好調だった分譲マンションの引渡しも一段落すること等から、下期にかけて減益と見ている。

「ヘルスケア」では、上期から下期にかけて（関節リウマチ治療剤）「ケブザラ」、（骨粗鬆症治療剤）

「テリボン」のオートインジェクターを中心に国内の医薬品の販売が伸び、更に Veloxis の販売も伸びることを想定している。一方、クリティカルケア事業では、上期に好調だった人工呼吸器が下期にかけて一段落することを予想している。またヘルスケア全体で、特に研究開発費が下期に増加する傾向という季節要因があり、販管費の増加を織り込むことから、上期から下期にかけては減収・

減益を予想している。

P6 2020年度通期業績予想の概要(2)

前年度比ではグループ全体で減収・減益の予想だ。「マテリアル」はセグメント全体に亘ってCOVID-19の影響を受けており、自動車関連市場、衣料関連市場の需要減退、石油化学原料市況の悪化、AN等の取引条件の悪化等から減益を予想している。

「住宅」は賃貸管理事業が引き続き堅調に推移しており、上期を中心に分譲マンションの引渡しも順調に推移するため、不動産部門は増益を計画している。しかし建築請負部門やリフォーム部門は営業活動においてCOVID-19の影響を受けており、セグメント全体としては減益を予想している。

「ヘルスケア」では、医薬・医療事業で国内薬価改定、償還価格改定の影響や、Veloxisの連結によるのれん等の償却の負担増加があったが、ウイルス除去フィルターは、COVID-19の影響でバイオ製剤ならびに血漿分画製剤の需要が高まっていることもあり、販売数量が増加した。また上期を中心に出張費用等の販管費が減少しており、増益を予想している。クリティカルケア事業では人工呼吸器の販売が増加している。それ以外の製品でCOVID-19によるネガティブな影響もあるが、全体として増益を予想している。

P7 2020年度通期業績予想の概要(3)

グループ全体の通期の営業利益は1,400億円、経常利益は1,420億円、当期純利益は870億円を予想している。全体として市場環境は徐々に改善しているが、依然として不透明で厳しい経営環境は続いていると認識している。COVID-19感染拡大についても予断は許されない。引き続き固定費抑制、在庫コントロールを怠ることなく、環境変化を未然に察知して、随時的確な経営判断を行って業績判断、改善に努める。

株主還元は以上の予想に基づいており、2021年3月期の1株当たりの配当は、中間配当17円、期末配当予想17円とし、年間配当としては34円を予想している。安定配当且つ継続的な増配を目指

す方針に変更はない。また通期業績を勘案して決定する方針にも変更はない。

【質疑応答】

モルガン・スタンレーMUFG証券・渡部氏 パフォーマンスプロダクツ事業は売上高が戻っている割に営業利益の伸びが小さい。この背景と、下期に向けての動向を教えてください。スペシャルティソリューション事業も現在の環境の割には営業利益が第1四半期から第2四半期にかけて減っており、下期の動向も含めて教えてください。

先ほど、旭化成エレクトロニクスの火災に関して原因究明中でなかなか入れないということだったが、お客さまへの影響や、こういった製品を製造していて、生産がどのくらい止まっているのか、詳細に教えてください。

桑葉 第1四半期から第2四半期にかけての動きは、自動車の生産台数が戻ったことと、繊維も衣料関連の需要が少しずつ戻ってきており、売上高が伸びている。一方で営業利益は、例えば、合成ゴムで第1四半期から第2四半期にかけては原料価格が上がってくるのに対して、販売価格が変わらないという期ずれの影響があること等を含めて若干戻りが遅いと見ている。

下期は、売上高は堅調に推移すると見ているが、在庫の調整や、定期修理を予定している事業があること等から、営業利益は売上高ほど伸びない。

杉山 旭化成エレクトロニクスの火災については、現在、状況確認中で詳しくは説明できないが、供給責任の全うに向けて在庫を確認するとともに、お客さまに同等品への切替えや外部委託先品の採用検討のご相談をしている。

同工場で扱う製品は当社の電子部品事業の売上高の3～4割程度だ。具体的には、アナログ半導体と呼ばれるもので、オーディオ用途のアナログ・デジタル・コンバーターやデジタル・アナログ・コンバーター、センサ関連IC、水晶発振器用IC等がある。まだ影響が見通せない状況だが、現時点では下期予想に営業利益で数十億円程度のマイナス

を織り込んでいる。

スペシャルティソリューション事業では、上期から下期にかけて鉛蓄電池用セパレータや自動車用の塗料原料が徐々に回復し、LIB 用セパレータも数量が増加すると見ている。ただ、電子材料製品は例年上期に売上高が大きく、下期は下がる傾向にある。それに加えて旭化成エレクトロニクスの火災の影響があり、大きく減益になっている。

渡部氏 クリティカルケア事業で、人工呼吸器の出荷は第1四半期から第2四半期にかけてどうだったか。また、下期はどのように見ているか。具体的な数字があれば伺いたい。

柴田 米国政府向けの人工呼吸器は 350 百万ドルを受注しており、約半分を上期に、残り約半分を下期に出荷する予定だ。上期には米国政府以外からの需要もあった。前年同期比での上期の増収分の大半は、人工呼吸器と、前年度に買収した Cardiac Science Corporation の連結影響によるものだ。下期は、人工呼吸器については米国政府向けの出荷を中心に見ている。

みずほ証券・山田氏 「マテリアル」の上期から下期にかけての動きについて伺いたい。パフォーマンスプロダクツ事業は、第3四半期には消費財の需要期もあると思う。先ほど説明があったが、もう少し詳しく教えてほしい。スペシャルティソリューション事業も、旭化成エレクトロニクスの火災により水晶発振器モジュール等で 20~30 億円の利益の圧迫要因が発生すると思うが、電子材料製品が引き続き好調な上に、イオン交換膜等も好調のはずなので、ここまで営業利益が落ちるのか。あるいは、それらについてもリスク要因があるのか。

また、旭化成エレクトロニクスの火災に関して、音源用のデジタル・アナログ・コンバーターは DA 混載で、デジタルノイズキャンセレーションをかけないといけないので、設計が極めて困難であり、代替品がないと思われる。賠償等のリスクを考えるとよいのか。また周辺住民の方々との関係で、再操業が困難になるような状況にはないか。

桑葉 上期から下期にかけての動きを事業ごとに説明すると、繊維系は増収・増益で、自動車および衣料関連事業の回復を見込んでいる。旧高機能ポリマー系も増収・増益だ。一方、消費財系は下期に広告宣伝等の固定費が集中すること、容器事業が COVID-19 影響で回復が見込めないこと等から、売上高は横ばい、営業利益は減益となる。

杉山 スペシャルティソリューション事業の営業利益は、上期 152 億円、下期 103 億円で、下期にかけて 49 億円の減益となると見ている。旭化成エレクトロニクスの火災の影響が大きな要因だ。それ以外では電子材料製品も、堅調ではあるものの下期の方が出荷が少ない季節性により、減益と見ている。LIB 用セパレータは、販売数量は順調に増加するが、製品構成差等によりあまり利益が伸びない見通しだ。

柴田 火災に関しては当局が原因究明の調査中だが、現時点では、周辺地域との関係で再操業が困難になる状況にあるとは考えていない。製品については、代替品が無い製品や、複雑な半導体の製造プロセスにおいて一部の工程のみ当該工場で扱っている製品もある。製品ごとに在庫を確認し、どの製品に代替品があるか、どの工程をどこに委託できるか、委託生産の量を増やせるか等、個別に詳しく検討し、供給責任の全うに向けて対応に注力していく。

山田氏 スペシャルティソリューション事業が上期から下期にかけて 49 億円減益となるが、火災の影響はその半分強という程度か。また、お客さまに対して賠償責任は基本的に発生しないという理解でよいか。

柴田 火災の影響については、しばらくは同工場での生産はできないため、機会損失として下期に数十億円程度を織り込んでいる。お客さまとの関係については、契約内容次第で個別に検討していくことになる。

山田氏 2点目は、住宅事業に関して伺いたい。不動産部門等の堅調により、思っていたよりも業績が良いが、建築請負部門の受注がこれだけ低下

すると、下期から来年度にかけてかなりの業績圧迫要因になるのではないかと。それとも、来年度も不動産部門等が堅調であることや、建築請負部門でも決算説明会資料 33、34 ページに記載があるような集合系の引渡しがある程度見込まれること等から、そこまで問題は無いものなのか。少し先の話になるが、住宅事業の現在の受注状況と今後の見通しについて教えてほしい。

坂井 ご指摘の通り、2020 年度の下期の業績見通しは、建築請負部門における上期の受注減の影響が出ることを前提としている。来年度の業績については、2020 年度および 2021 年度上期の受注分の引渡しが影響するため、まだまだ今後の状況次第であり、明確な数字は現時点では策定していない。今後の受注状況を見て、来年度の計画を立てていくことになる。

足元の受注状況に関しては、第 1 四半期は前年同期比で減少率が大きかったが、第 2 四半期は少し改善を見せている。下期は第 2 四半期のような状況がしばらく続くと想定している。

山田氏 決算説明会資料 32 ページと 34 ページを見ると、2020 年度に集合系の受注をある程度見込んでいるので、来年度は受注残が一時的に減るかもしれないが、業績が大きく悪化することは無いという理解でよいか。

坂井 受注については、ご指摘の通り集合系は比較的落ちこみが少なく、今後は多少盛り返していただろうと見ている。来年度については今後の状況次第だ。

SMBC 日興証券・宮本氏 1 点目は医薬・医療事業に関して伺いたい。決算説明会資料 36 ページの医薬品別の売上高を見ると、(免疫抑制剤)「Envarsus XR」がかなり伸びているように見える。前年の Veloxis の開示資料と比較すると、上期で 50%程度伸びているようだが、その理解で正しいか。また Veloxis 買収から 10 カ月近く経過しているが、PMI の進捗状況はどうか。もし可能であれば、新規患者ベース、あるいは処方ベースでのシェアの動き等も教えてほしい。

柴田 前年の数字は今手元に無いが、大きな成長をしているのはその通りで、今後も高い伸びが続く見通しだ。COVID-19 影響により腎移植手術が控えられる傾向が一時あったが、それも回復してきているようだ。副作用が少ない特長等により患者さんが他の薬から「Envarsus XR」に切り替えるケースと、新規腎移植患者の獲得とを合わせ、処方計画通り増えている。下期以降も、COVID-19 影響は若干あるかもしれないが、計画通り拡大していくことを期待している。

PMI では当社の組織との統合も含め最適な形を検討している。COVID-19 で出張が難しい状況だが、オンラインの活用により、かえってよくコミュニケーションできていると聞いている。順調に進捗しており、人財の維持を含め特に課題は無い。

宮本氏 少し気が早いかもしれないが、のれん等償却後の黒字化の見通しについて、従来は 23 年度とされていたが、早まる手応えはあるか。

柴田 今のところ計画通りと見ている。

宮本氏 2 点目は、LIB 用セパレータに関して販売数量指数の上期実績の数字と、可能であれば通期の伸び率の見通しを伺いたい。また、ESS (エネルギー貯蔵システム)、車載、民生の用途別の動きについても教えてほしい。

福田 上期は、前年同期比では湿式は増設が寄与し、乾式は韓国 ESS 火災の影響から復調したことから販売数字が伸びた。販売数量指数については、2019 年度上期は 303、2019 年度下期は 301 で、2020 年度上期は 390 となった。第 1 四半期、第 2 四半期ともに前年同期比で約 3 割弱の伸びとなっている。上期から下期にかけては、民生用途の季節要因による落ち込みを車載用途の増販で補い、上期並みの高い出荷水準を維持できると見ている。通期の前年度比の伸び率は、3 割弱と見込んでいる。

宮本氏 通期で 3 割弱というのは、競合他社や他の電池材料メーカーに比べて強い伸びのように見えるが、シェアが増えているのか、また、価格は大きく動いていないか。

福田 シェアについては、中国の競合メーカーが

数量を伸ばしていることから、当社のシェアが伸びているという実感は特にない。一方で価格については、競争は激しくなっていており、コストダウンとのバランスを取りながら検討している。

大和証券・梅林氏 1点目は医薬・医療事業に関して伺いたい。Veloxisののれん等償却を考慮すると、国内で薬価改定等があった割には利益が確保できていると感じるが、医療機器事業のウイルス除去フィルターの好調や、上期に活動費用が小さかったことが影響しているのか。また、下期にかけては若干減益の計画となっているが、活動費用の増加や、ウイルス除去フィルターの販売動向等、背景について教えてほしい。

柴田 基本的にはご認識の通りだ。ウイルス除去フィルターは通年で安定的に出荷するものではなく、受注タイミング等により期ごとに変動がある。今年度は上期の出荷が多かった。COVID-19の影響により製品を確保しようとする動きもあったのかもしれない。通期で見ていただければと思う。上期から下期にかけて、需要面、競争面で特段大きな変化はない。

医薬事業に関しては、「ケブザラ」や「テリボン」のオートインジェクターの販売拡大を期待している。ただし、下期はMR活動等も活発化し、上期から下期へ期ずれする分も含めて費用が増える見通しだ。また、研究開発費は従来下期の方が多季節性がある。

梅林氏 医薬事業に関して、この上期はVeloxis以外の国内の事業の利益は落ちているという理解で合っているか。

柏木 国内事業については、COVID-19の影響でMRの活動がほぼできなくなり、第2四半期になって徐々に再開した。その影響で売上高は前年同期比で減収だが、利益に関しては、活動費用の減少もあり、一定の水準は確保できた。売上が落ちた分がそのまま利益に影響したわけではない。

梅林氏 2点目はクリティカルケア事業の人工呼吸器に関して、第1四半期と第2四半期、および上期から下期にかけての動きをあらためて伺いた

い。また、(着用型自動除細動器)「LifeVest」やその他の除細動器に関しても、同様に伺いたい。

柴田 人工呼吸器に関しては、2020年度通期予想には、米国政府向けの350万ドルの契約の出荷分と、その他諸外国向け等の出荷分とを織り込んでいる。今年の3月から4月にかけての急速なCOVID-19感染拡大に伴い、第1四半期、第2四半期に各国、各病院からの受注が集中したが、その後は受注に関して大きな動きは無い。その出荷が当社の生産律速等によりずれこみ、第1四半期から第3四半期まで続いている状況だ。人工呼吸器は本体の他に消耗品もあり、第3四半期以降には消耗品の出荷も一定程度織り込んでいる。

除細動器や「LifeVest」に関しては、製品ごとで多少状況は異なるが大きな傾向として、第1四半期は、病院へのアクセス等に制限があったものの、前年度に受注した分の出荷がそれなりにあった。第2四半期は、夏が不需求期ということもあり、受注は低調だった。受注してもすぐに出荷するわけではないので、第1四半期、第2四半期の売上高は必ずしも受注に応じた動きにはなっていない。四半期単位でなく、半期や年単位で見ていただければと思う。通期予想としては、人工呼吸器以外はCOVID-19影響動向に鑑みて全体として前年度並み程度と予想している。

梅林氏 下期の利益が前年同期比であまり大きくは伸びていない点について、人工呼吸器の出荷が第3四半期まではあるが、第4四半期にはあまり織り込んでおらず、「LifeVest」や除細動器等は前年同期比では増えるものの、活動費用のずれ込み等も含め全体としてこのような数字になっているという理解でよいか。

柴田 人工呼吸器の利益率は、他の製品より特に高いわけではないが、上期は大きな販管費をかけることなく受注が一気に増えたので、効率が良かった。「LifeVest」も除細動器も、COVID-19影響下において、工夫して新しい需要を取り込んでいく必要があり、下期に販管費が少し増えるだろう。人工呼吸器の出荷が上期に比べ減少することあ

り、利益率は相対的に悪くなると見ている。

野村證券・岡寄氏 1点目は、基盤マテリアル事業について伺いたい。第1四半期から第2四半期および上期から下期にかけての利益の変動要因と、ANについて、スプレッドの第2四半期実績および下期前提、稼働状況、競合企業の供給動向に関して教えてほしい。

高橋 決算説明会資料 41 ページに記載している通り、基盤マテリアル事業の営業利益は、第1四半期が17億円の赤字、第2四半期は黒字となり18億円、下期予想は59億円と、徐々に改善している。

第1四半期は前年同期比で販売数量が減少し、交易条件が悪化したことに加え、在庫受払差の影響等により利益が減少した。第2四半期以降は、ANの用途であるABS樹脂等の需要の回復が下期にも続き、販売数量が増えるを見ている。プロピレン市況は高止まりしているが、スプレッドは改善していくと見ている。

第2四半期実績は、AN市況958ドル/トン、プロピレン市況839ドル/トン、スプレッド119ドル/トンだった。競合他社の新工場が稼働を開始したことや、欧州製のANがアジア市場に出回ったことでAN市況が下がる一方で、プロピレン市況が高止まりしたことから、スプレッドはかなり低くなった。

ANは需要が好調で足元の市況は1200ドル/トン程度であり、下期の前提は1,200~1,250ドル/トンとしている。プロピレン市況は足元で900ドル/トン弱で、需給が年内は若干タイトに推移するが年明けに落ち着くことを想定し、下期の前提は800~850ドル/トン、スプレッドは350~450ドル/トンとしている。

当社の稼働は足元で8割程度だ。下期は需要を見ながら判断していく。

競合他社については、中国のANメーカーが6月末に新工場の稼働を開始したが、他のメーカーでトラブルや定期修理等があり、それぞれ需要を見ながら稼働している状況であることから、供給増によって市況が大きく悪化するとは見ていない。

岡寄氏 2点目は、LIB用セパレータに関して、上期から下期の動きおよび通期の前年度比の動きについて教えてほしい。

福田 通期に関しては、販売数量増を主要因として前年度比で増収・増益となった。車載用途では、特に欧州市場において引き合いが旺盛だ。

岡寄氏 上期の販売数量が前年同期比で3割増とのことだが、電気自動車とそれ以外の動きはそれぞれどうか。下期はどのような前提で見ているか。

福田 用途によって大きな差は無く、いずれも概ね2~3割程度、全体として3割弱の伸びとなっている。

岡寄氏 価格プレッシャーは競合が増えたことで従来より少し厳しくなるが、コスト削減で何とか対応するというイメージか。

福田 その通りだ。特に車載用途は非常に競争が激しく、価格プレッシャーが厳しい。当社もコストダウンの努力を続けていく。

濱本 以上で電話会議を終了する。ご参加ありがとうございました。

[終了]